

**“洋上風力”、“自社開発の電気運搬船”、“国内大型電池工場”
自然エネルギーの爆発的普及を実現する
新会社「株式会社パワーエックス」を設立
蓄電と送電技術を進化し、電気を船で運ぶ時代を実現**

この度、自然エネルギーの普及並びに蓄電、送電技術の進化において新規事業を展開する株式会社パワーエックス (PowerX, Inc.) (東京都港区、代表取締役社長兼 CEO：伊藤 正裕、以下 当社)は、2021年8月18日に事業発表しましたのでお知らせいたします。



※画像はイメージ

■設立の背景

日本政府は 2030 年までに最大 38%の電力を自然エネルギーで賄うとの目標を立てており、そのためにも現在の約 20MW の洋上風力発電量は 2030 年までに 10GW、2040 年までに 30GW～45GW まで引き上げる必要があるとされています。日本の近海は沿岸部でも水深が深く、着床式の洋上風力発電所の設置場所には限界がありますが、発電と利用の場所の距離を離すことができれば、洋上風力発電所の設置場所の選択肢を広げ、海で囲まれた日本の豊富な自然エネルギーのポテンシャルをより活かすことが可能です。また、送電をさらに遠距離化することで、国境を超えた大陸間のクリーンエネルギー輸送なども実現が可能となります。これからの再生エネルギーの普及のためには、さまざまな拠点をつなぐ新たな送電網やシステムの拡充が大変重要な課題です。

当社は、日本の自然エネルギー拡大促進のために新しいテクノロジーを開発し、電気の蓄電と送電にイノベーションを起こします。現在、当社の社外取締役として、電池ベンチャーとしては世界大手の Northvolt の創設者兼 COO の Paolo Cerruti (パオロ・セルッティ) 氏や、元 Google 幹部の

Caesar Sengupta (シーザー・セングプタ)氏、米国 Goldman Sachs 元パートナーの Mark Tercek (マーク・ターセク) 氏が就任しております。

■事業ミッション「船で電気を輸送。洋上風力発電の爆発的普及を実現する。」

洋上風力で作られたクリーンな電力をバッテリーに直接蓄電。自社開発の電気運搬船「Power ARK」により、洋上から世界中の変電設備まで無人で運搬します。海底の掘削等、大規模な敷設工事が必要となる海底ケーブルと比較し、環境や自然に著しく優しい、災害にも強い、これまでにない送電事業を展開します。海底ケーブルから解放されることで、洋上風力発電所の設置場所の自由度も大きく向上します。



現在世界のエネルギーは燃料を船で運搬する方法が一般的であり、日本の総発電量の 84.9%が、船により輸入された炭素エネルギーを燃焼して発電されています(※1)。当社は、燃料ではなく、電気を電気のまま運ぶ新しい方法で、日本の抱える自然エネルギーや系統の問題を大きく解決、自然エネルギーの爆発的普及に貢献していきます。

(※1) 資源エネルギー庁の2019年度におけるエネルギー需給実績より

■プロジェクト① 電気を運ぶ船「Power ARK」の自社開発

日本の海域にある洋上風力発電所から海岸に自然エネルギーを輸送するため、2025 年までに、「電気運搬船」の初号船の開発を行います。初号船「Power ARK 100」は、船舶用蓄電池を 100 個積載し、220MWh (一般家庭およそ 22,000 世帯 1 日分(※2)の電気)の蓄電能力を保持します。本船は完全に電気のみで航行する仕様とバイオ燃料などを併用して航行する仕様があり、短距離から長距離の電気輸送に対応。電池のみで推進する場合でも、300km 程度の沖まで航行し、陸地から遠い沖合や離島、電力網のない様々な場所に電気を届けることが可能です。また、持続可能なバイオディーゼル等を併用することでさらなる遠距離化ができ、国境を超えた大陸間のクリーンエネルギー輸送の実現も可能となります。

(※2) 1 世帯あたりの 1 日の消費電力を 10kWh とした場合

<電気運搬船 初号船「Power ARK 100」>



※画像はイメージ

<Power ARK 100 のスペック>

名前	Power ARK 100
サイズ	船長: 100.5m / 船幅:21.9m / 喫水:5m
DWT	2,200t
走行可能距離	100-300km (電力推進のみの場合)
速度	巡航: 7 ノット 最大:約 14 ノット
搭載電気容量	222MWh
ナビゲーションセンサー	ソナー、レーダー、AIS、LIDAR、カメラ、気象計測機器、 衝突回避処理ソフトウェアプラットフォーム
ナビゲーションシステム	GNSS-GPS、INS、FOG/ARHS、PPU、衝突回避システム

■プロジェクト② 日本国内に大型電池自社工場を計画

電気運搬船には大型蓄電池を大量に、低コストで積載する必要があります。同時にこれから脱炭素社会、自然エネルギーの普及には同じく大型蓄電池が必要となります。そこで当社は 2024 年までに 1GWh、その後毎年 1GWh 増やしていき、最終的には 2028 年までに毎年 5GWh の大型電池工場を日本国内で建造し、船舶用電池、電気自動車(EV)急速充電器用電池、グリッド電池などの大型蓄電池の製造及び販売を行います。当社の電池工場は「パッケージング工場」であり、セルを製造することはなく、電池のパッケージングをオートメーション化します。電池を大量に製造することでコストを下げ、今後拡大する蓄電池需要に対応します。

<大型電池工場「Power MAX」>



※画像はイメージ

<製造予定の船舶用電池、EV 急速充電器用電池、グリッド電池のイメージ>



船舶用電池



EV 用急速充電電池



グリッド電池

■創業メンバーの募集

当社は、電池工場自動化の計画と施工管理を担当するオートメーションエンジニアリングマネージャー、蓄電池の仕様設計等を担当するプロダクトエンジニア、プロジェクトマネージャーやバックオフィス担当などの採用を開始しました。募集要項の詳細は下記ページをご確認ください。

▼募集概要

募集職種： オートメーションエンジニアリングマネージャー、プロダクトエンジニア、プロジェクトマネージャー、バックオフィス担当

募集人数：各若干名

応募方法：採用ページよりエントリー

選考方法：Web 面接

パワーエックス採用ページ URL：<http://power-x.jp/>

株式会社パワーエックスについて

会社名：株式会社パワーエックス (PowerX, Inc.)

URL：<http://power-x.jp/>

設立：2021年3月22日

代表者：代表取締役社長兼 CEO 伊藤 正裕

所在地：〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-10-5

事業内容：大型蓄電池の製造及び販売、電気運搬船の開発及び製造

資本金：7,000万円



創業者／取締役について



代表取締役社長、CEO 伊藤 正裕 (いとう まさひろ)

2000年12月、株式会社ヤッパを設立、2014年10月に株式会社スタートトゥデイ(現株式会社ZOZO)に売却。2016年1月に株式会社スタートトゥデイ工務店(現 ZOZO テクノロジーズ)の代表取締役 CEO に就任。2017年6月に株式会社スタートトゥデイ(現 株式会社 ZOZO)の取締役に就任。2019年9月に株式会社 ZOZO 取締役兼 COO に就任し、同社において、「ZOSUIT」、「ZOMAT」、「ZOSUIT2」、「ZOZGLASS」など数多くの新プロダクトの開発を担当し、ZOZO グループのイノベーションとテクノロジーを牽引した。



取締役会長 鍵本 忠尚 (かぎもと ただひさ)

九州大学病院にて医師として勤務の後 2005年、1社目の大学発バイオベンチャーを起業。2011年2月、再生医療の実用化を目指し株式会社ヘリオスを設立。2012年2月、同社代表に就任。2015年6月、東証マザーズ上場。難治性疾患に苦しむ患者さんへ治癒と希望を届けるという初心の実現に向け、再生・細胞医薬品という新たな産業創生に取り組む。



取締役 Paolo Cerruti (パオロ セルッティ)

2012年、テスラモーターズに入社、VPとして購買部門と業界戦略を担当し、同社と事業の初期スケールアップに重要な役割を果たす。2015年、元テスラの幹部であったピーター・カールソン氏らと自動車産業のバッテリーメーカーNorthvoltを立ち上げ、現在同社のCOOを務める。同社は、よりサステナブルなバッテリーの開発と生産という目標のもと、ヨーロッパ初のギガワットファクトリー(年間生産能力: 60GWh)をスウェーデン北部に現在建設中で、これまでに計65億ドル以上の資金を調達している。テスラ入社前にはルノーや日産自動車などの企業で、フランス、日本、インドなどへの在任も経験。



取締役 Caesar Sengupta (シーザー セングプタ)

Encentuate Inc.とHewlett Packard Labsでエンジニアリングと研究に携わったのち、2006年にGoogleに入社し、Chromebook向けOS、Chrome OSのVP兼プロダクトリードを務めたのち、Next Billion UsersおよびGoogle PayのVP兼GMを担当、これらプロダクトの立ち上げ、構築、主導で重要な役割を果たす。20年間に渡り、グローバル市場向けのコンシューマーおよびエンタープライズテクノロジープロダクトの開発に携わり、オペレーティングシステムの設計とエキスパートファインディングシステムに関する特許を15件取得。



取締役 Mark Tercek (マーク ターセク)

ゴールドマン・サックス証券での24年間のマネージングディレクター兼パートナーを経て、2008年に世界最大規模の環境系NGO「ザ・ネイチャー・コンサーバンシー」に入り、CEOとして会社を率いる。ニューヨーク大学スターン経営大学院での教員経験があり、The New Yorker、Bloomberg Business Week、The Wall Street Journal、The AtlanticやDelta's Sky Magazineなどで紹介。現在は、世界中のビジネスリーダー、投資家、NGOの環境戦略アドバイザーを務める傍ら、ウィリアムズ大学の理事会と外交問題評議会にも参加。

《本リリースに関するお問合せ》

担当：佐藤烈 (080 - 7352 - 9161)、一瀬高志(070-3115-6995)、清水

Mail: powerx@ssu.co.jp

《創業メンバー募集に関するお問い合わせ》

Mail: recruit@power-x.jp